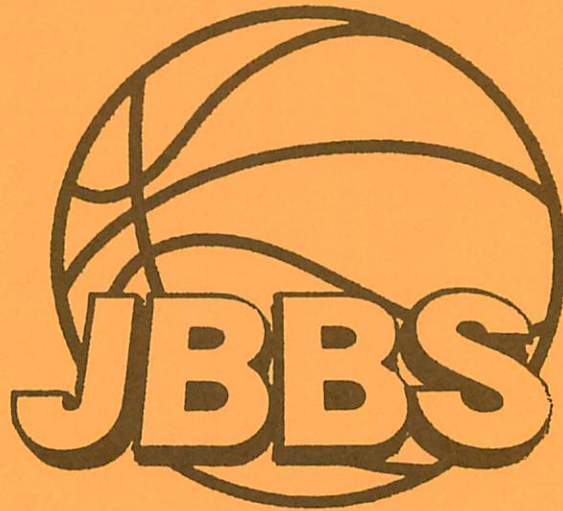


バスケットボールプラザ

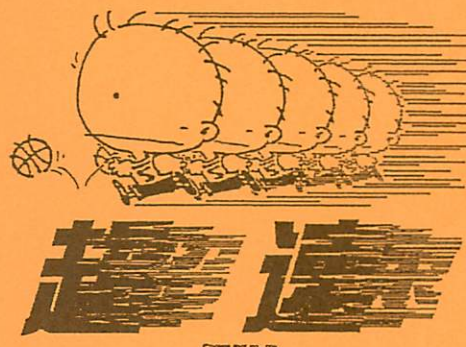
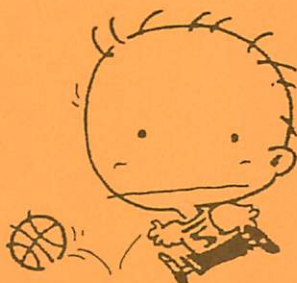
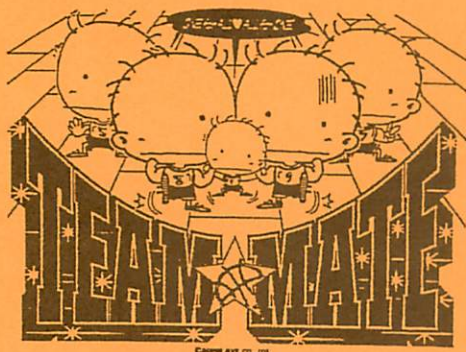
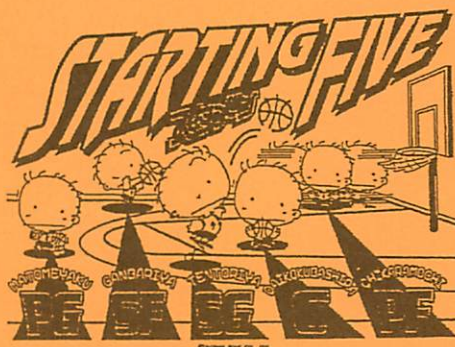
Basketball Plaza

No:39



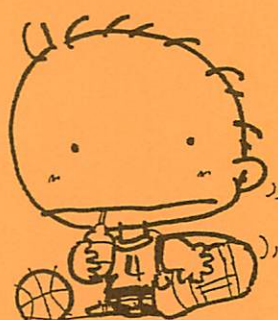
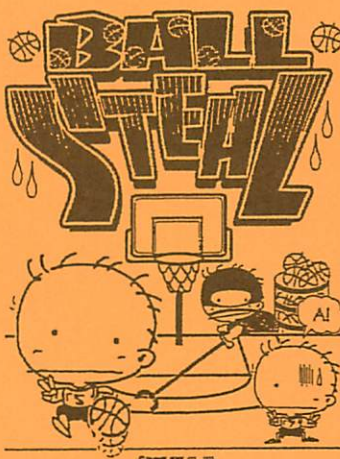
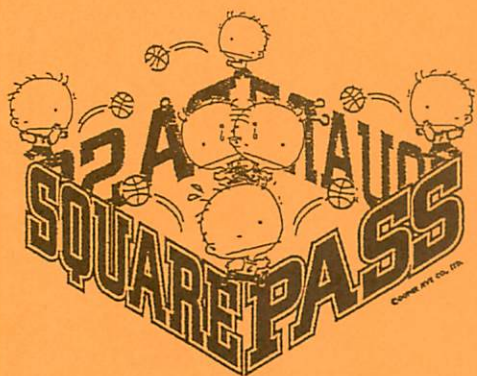
2008年10月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



DUPER®

表現の自由人。



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp

目 次

○ 日本協会新役員体制決まる	3
○ 全国ママさん交歓大会終わる	5
○ 白夜のオリンピック 水谷 豊 . . .	7
幻の大森兵蔵をもとめて	
○ レラカムイ北海道アジアリーグで健闘	9
○ 会員だより	
バスケットボールとの出会い 並木 浩 . . .	10
吾が悔恨の歳月 角能 良宣 . . .	11
スポーツとの出会いそしてその実況 宮 和夫 . . .	13
○ JBL開幕	15
○ WJBLは10月3日開幕	21
○ bjリーグは10月11日開幕	24
○ 訃報・事務局だより	32
○ プラザ こぼればなし	33
○ お詫びと訂正	34

全国ママさん交歓大会終わる

[編集部]

第27回目となった全国ママさん交歓大会は、去る7月20日から21日まで長崎市で開催され、一般とシニアの部で合計80チームが参加し、今年も盛大に開催された。

振興会では、かねてよりこの大会に対して多額の助成を行ってきたが、今期も助成を行うと共に渡辺副理事長を開会式と大会に派遣して、全国家庭婦人連盟および地元長崎県協会との交流を図り振興会の活動について理解を深めていただいた。



<大会結果>

一般Aブロック

1 G-MAX (長崎)	61	32	53	鎌ヶ谷ファーストレディース
2 鎌ヶ谷ファーストレディース (千葉)	32	86	28	サラダボール
3 サラダボール (愛知)	86	8	38	3位決定戦
4 VIVA石川 (石川)	38	51	57	VIVA石川
5 フカガワミセス (長野)	51	36	10	フカガワミセス
6 ウインク (兵庫)	65	26	64	ウインク
7 亜仁麻留 (大阪)	26	37	34	亜仁麻留
8 ENDLESS (静岡)	37	39	50	

一般Bブロック

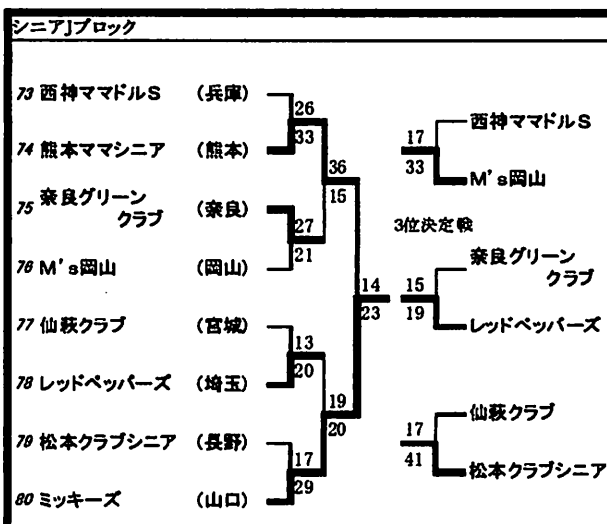
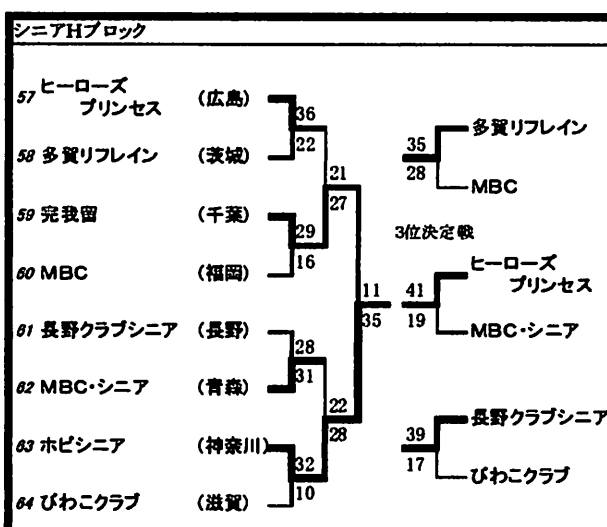
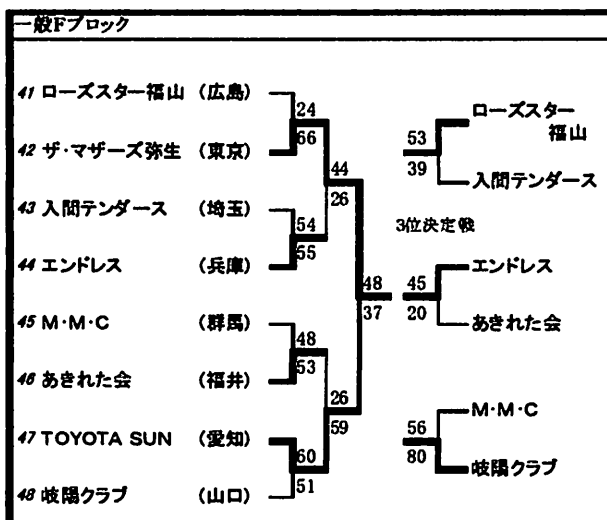
9 上越ママ (新潟)	58	20	27	カンガルー
10 カンガルー (滋賀)	20	34	49	佐世保
11 佐世保 (長崎)	34	21	41	3位決定戦
12 Wish (岡山)	41	43	35	Wish
13 フェニックスママ (宮崎)	43	48	49	湘南ローズ
14 津田沼クラッシュ (千葉)	48	57	34	Wish
15 ディジーダック (大阪)	57	53	62	湘南ローズ
16 湘南ローズ (神奈川)	53	48	58	フェニックスママ
			47	ディジーダック

一般Cブロック

17 多治見エルクラブ (岐阜)	43	24	59	緑地クラブA
18 緑地クラブA (東京)	24	50	33	花園ママさんクラブ
19 花園ママさんクラブ (香川)	50	42	17	3位決定戦
20 マザーズ (埼玉)	42	69	62	マザーズ
21 BB醍醐 (京都)	69	47	37	Remix
22 Remix (神奈川)	47	28	57	BB醍醐
23 コスモス (広島)	28	40	21	コスモス
24 金曜クラブ (千葉)	40	48	54	

一般Dブロック

25 BOSE (茨城)	46	59	49	BOSE
26 South Winds (福岡)	59	36	43	Sperkler
27 NBC (東京)	36	59	50	3位決定戦
28 Spkler (広島)	59	26	38	South Winds
29 J'sクラブ (神奈川)	26	43	53	J'sクラブ
30 佐久クラブ (長野)	43	27	32	佐久クラブ
31 熊本ママ (熊本)	27	64	70	砺波クラブ
32 砺波クラブ (富山)	64	33	22	



白夜のオリンピック

幻の大森兵蔵をもとめて

書評 [水谷 豊]

バスケットボールを日本に初めて紹介し、日本初参加となったオリンピックの監督も務めた大森兵蔵。日本の近代スポーツ化に尽力しながらも志半ばで病に倒れた、その数奇でロマンに溢れる幻の半生を追った歴史ノンフィクション。

大森兵蔵は1876年に岡山で生まれ、1901年25歳の時に渡米。日本とアメリカで様々な学校の入退学を繰り返し行き着いた場所はバスケットボール生誕の地、アメリカ東部マサチューセッツ州スプリングフィールドのスプリングフィールド・カレッジ(当時は国際YMCAトレーニング・スクール)。ここで後の活躍の原点となる近代スポーツの最先端を学んだ兵蔵は同時に永遠の伴侶となるアニーと出会う事になる。

帰国後は、まだまだ体制の整わない日本スポーツの現状に苦慮しながらも、身に付けた知識を素に国内の注目を集め、日本のオリンピックの歴史を幕開けする一人となる。しかしオリンピック開催前から病に侵されていた兵蔵は二度と日本の地を踏むことなく他界。そしてアニーは兵蔵亡き後も彼の夢の一つを日本で叶えていく事となる。

著者はアメリカと日本を何度も往復しながらコツコツと大森兵蔵の足取りを調べていく。少ない情報から少しずつ大森の軌跡や思考が読み取れてくると、なんだかミステリー小説の謎解きに加わっているような錯覚を覚えるほど。「知りたい」という気持ちが著者を突き動かしているのが良く伝わってくる。歴史探求の術を学ぶにも良いだろうし、日本の近代スポーツの黎明期を学ぶにも重宝する。また純粋に大森兵蔵のロマン溢れる人生を楽しんでも良いだろう。

この大森兵蔵が生きた時代は激動の時代。日清・日露戦争で日本は高揚し、世界と肩を並べると息巻いていた時代。そんな中で兵蔵は「スポーツ」の分野から児童教育を考えていた。少なからずとも「平和」の思想に近い考えで活動していたと想像できる。引用されていた大森の著書から「競技運動は人の健康を増進するのみならず、其精神を訓練して実際生活上に有用なる効果をもたらすものである」から、更には「故に一の競技会に於て何人が勝利を得たかという問題よりも、此競技会に於て果してレコードを作り得たかどうかということに競技者の興味がなくてはならない」など。競い合いの中でも本当に大切なのは精神であり、人の成長であると言っている。オリンピックが現在も平和の祭典と呼ばれるのは当時からこのような考え方がスポーツの根本にあるからだろう。

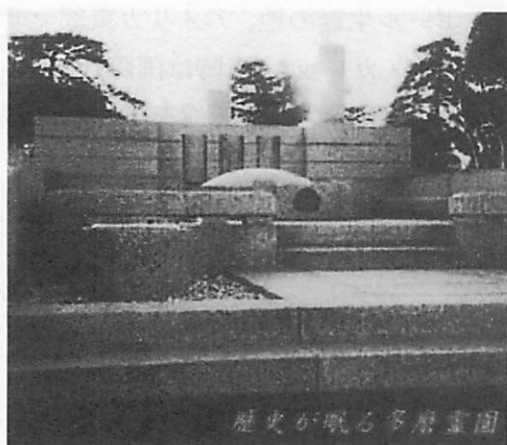
現在の日本で若者の育成の一環として行われる「部活」はどうだろうか。指導者たちがこのようなスポーツの根本的な理念を理解して指導をしているだろうか。ビジネスに取り込まれた勝利至上主義の中で学生たちはスポーツから得られる物が多いだろうか。危惧せずにはられない。

この本を読み進めて行くと、命を賭してまで伝え残した兵蔵や同時期に活躍された方々のスポーツへの熱い思いがひしひしと伝わってくる。だからこそいまの現状を目の当たりにすると何だか申し訳ない気持ちになってしまうような気にさせられる著書である。

しかし、だからこそバスケットボール伝道 100 周年を機に近代スポーツ黎明の思想を見直し、もう一度スポーツ全体を見つめ直す時が来ているのではないだろうか。バスケットボールは多少の形は変われども、100 年以上経っても色褪せず世代を超えて愛される「スポーツ」なのである。大切に育てまた次の世代に生かさなくてはならないのだ。

この一冊はバスケットボール好き、スポーツ好きと公言される方ならば是非とも読んでもらいたい一冊であると同時に、体育・スポーツの指導者の方々には必読の一冊である。

〔振興会会員・日本協会理事〕



多磨霊園にある大森兵蔵の墓

レラカムイ北海道アジアリーグで健闘

[編集部]

JBL所属の「レラカムイ北海道」が、アジアバスケットボールリーグに参戦して健闘した。アジアバスケットボールリーグは、FIBAアジアで唯一アジア全般における活動を承認されている組織で、1992年に①アジアのバスケットボールのレベル向上、②東アジア圏内での国際交流試合の機会増加、③代表選手以外のトップリーグの選手に国際試合経験の機会創出などを目的として発足。

現在の会長は、元FIBA会長のカール・チン氏（香港）で、リーグ戦は発足の年から開催され、日本からは1999年と2000年にスーパーリーグ選抜チームが出場、2001年には、いすゞ自動車参戦している。

今回のリーグ戦は、中国の東莞市体育館で9月14日から18日まで開催され、日本からはJBLを代表して「レラカムイ北海道」が参加した。

大会は4チームの総当たりリーグ戦の後、上位2チームによる決勝戦が行われ、「レラカムイ北海道」が健闘して準優勝に輝いた。

<大会結果>

9月14日

レラカムイ北海道 ○ 63 - 55 ● ソウルサムスンサンダース
(日本) (韓国)

9月15日

レラカムイ北海道 ○ 68 - 62 ● ガンドンウィンナーウェイクラブ
(日本) (中国)

9月16日

レラカムイ北海道 ● 58 - 63 ○ 永倫
(日本) (香港)

9月18日 決勝戦

レラカムイ北海道 ● 71 - 80 ○ ガンドンウィンナーウェイクラブ
(日本) (中国)

レラカムイ北海道は、この大会に出場したためJBL開幕記者会見に参加できなかったが、今シーズンの活躍が期待される。



バスケットボールとの出会い

並木 浩

記憶が薄れてしまっていて定かではないが、小学5年生位？のころ、青山学院旧制中学生だった兄貴が籠球部でプレイをしていたことから、私を明治神宮外苑の水泳場（現在の東京体育館のあたり）に特設されたバスケットコートに試合を見に連れて行ってくれたことがバスケットボールとの出会いであった。

その日の試合はナイトゲームで、関東大学リーグ戦の立教大学対東京文理大（現筑波大）の対戦であった。今でも頭に焼き付いているのは、紺に黄色い縁取りをした立教のユニフォームが、夜間照明によって鮮やかに輝いていたことである。

兄貴は、青山から立教へ進学した前田選手にあこがれていたのか大の立教ファンであったが、この試合を見て私もすっかり立教ファンになってしまった。笠原、金選手など、カッコイイという子ども心は今もバスケットを見る眼に残っている。

旧制専門学校生のころ、戦後焼け落ち荒廃した青山学院の校庭にポツンと立っていたバスケットゴールで、シュートの練習をする学生が自然と集まりだして試合ができる人数となり、戦前のOBの方とも連絡が取れて、新制大学発足と共に体育会の部として認められた。そして他校との交流も出来るようになった昭和24年ごろは、バスケット漬けの大学生活であった。

試合の観戦もあらゆるゲームを渡り歩き、特に日本鋳業と日本鋼管の試合は欠かさず見に行った。当時の試合会場は、東京神田の国民体育館、芝スポーツセンター、明治大学駿河台体育館などであったが、現在残っているものはない。

最近では、母校の試合観戦に日参して「楽しくスリリング」を味わっている。

日本協会も新しい役員の陣容が整って、長い間の低迷から抜け出せそうである。日本男子のトップリーグであるJBLとプロのbjリーグが、お互いに切磋琢磨して日本のバスケットボールをリードしていてもらいたいものだ。

運営の性格が異なる両リーグを、日本協会の手腕で橋渡しして、ファンが楽しくスリリングなゲームが見られるようになったら素晴らしい。トップリーグが充実するためには、大学バスケットのレベル向上が急務ではないだろうか。バスケットボールに対する情熱や取り組む姿勢など、学生時代からプロ意識をしっかりと身につけてもらいたいものである。

試合を観戦する側としては、勝手な要望かもしれないが、「楽しくスリリング」な試合を求めているからである。

子どものころバスケットボールに出会い、以後60年以上バスケットファンであるが、日本バスケットがオリンピックに出場できないことは誠に寂しい。

世界と比べても体力、技術、養成システムなど、はるかに数年の遅れをとり、アジアでも優位に立てない現状をバスケット界全体が認識して、新たな強化に取り組まなければならない。

新たにスタートした日本協会強化本部のスタッフに期待するところ、まことに大である。

〔青山学院大学OB〕



吾が悔恨の歲月

角能 良宣

平成20年9月3日、我が家のポストに青色封書の投函ありて、差出人は日本バスケットボール振興会、何か胸騒ぎと嫌な予感を抱きつつ開封すると正に六感が的中し、その用件は会報「バスケットボールプラザ」に寄稿せよとの指令書であった。天災・人災が多発の昨今であるが、全ては他人事と耳目を閉ざしてサンデー毎日の日捲りを日課として、静謐隠栖に暮らす我が身に突然襲い来る大災害である。この日の晩酌の不味なること夥し、早速に出筆お断りの言逃れの理屈を考えつつ、手にしていたスポーツ紙をふと見ると、紙面の片隅に田臥君の日本リーグへの復帰のことと、中国から2m36cmのプレイヤーが来日して、bjリーグのチームに入団するとの記事が目にとまる。

そして食卓前のテレビでは麻生太郎氏が次期総裁・総理の本命と報道されており、これらのニュースは無様に紛糾を続けているバスケットボール協会に暗澹たる思いを抱き続けてきた私にとって、久々の朗報である。ソーダ割りウイスキーが何時もの美味さに戻り、この際投稿するのも新入会員の務めかとも思い直して、人生最後の恥さらしを覚悟した次第である。

さて、振興会から注文の題目その1は、近況を記せとのことであるが、私にとって歳月の過ぎ往きは十年一日のごとく、20年前の脱サラから今日まで、そしてそれ以前のサラリーマン時代の25年間も、又それ以前の学生時代も光陰の如くに素早く通り過ぎたる身近の出来事であったような気がする。

言葉を変えれば吾が人生総じて悔恨の窮まりであり、それぞれの時代における後悔せし失敗は、何時かはやり直せるであろうと過ごしてきたが、気がつけば古希の年も早や通り過ぎてしまい、最早やり直しをする気力も体力もなく、醉生無死の日常生活が近況である。

その中での近況最たる出来事は好漢「横山房男君」の彼岸への見送りである。早すぎる、急逝せし彼の記憶についてはプラザ第37号に、金川英雄氏が誄詞で記述されているので省くこととするが、70年の人生を全うしたであろう彼が、唯一やり残したことがあったような気がする。

彼がバスケット協会の体制・体質の改革を早急に断行する必要性を、かなり早い時期から訴え続けていたことは多くのバスケット関係者はご存知のことと思う。

「関六・35会」なる老人会の存在はあまり知られていないと思うが、彼が発起人となって旧関東大学、即ち慶応大、教育大、日本大、明治大、立教大、早稲田大を昭和35年に卒業した全ての戦友たちに呼びかけて、平成16年に設立された親睦団体である。彼はこの会を母体として35年卒業に限らず会員の枠を広げて、何がしたかったのかは賢明なる諸兄にはお解かりいただけたと思う。

昨年11月9日に行われた第4回「関六・35会」散会後の二人での二次会で、協会の改革論を熱弁にて聞かされていた時にもっと強く彼の喫煙を戒めるべきであった。それから2ヵ月後に逝ってしまったことを思うと、たとえ絶交を申し渡されても言うべきであったと悔やんでいる。

近況その2。6年前に喉頭がんを患い三途の川を渡り損ねて、閻魔様に声帯を切られて声を失ったこと。その3。今年の7月に行われたターゲット・バード・ゴルフの東京都オープン大会で優勝したこと。(バスケットとは関連なきスポーツなるもボールの籠入れを目的とする点にバスケットとあい通じるので敢えて自慢させていただいた)

題目その2。私のバスケット暦は、私立本郷中学2年生の時、バスケットをやると背が高くな

るとの話で高校生チームに入部。チビで非力なためボースハンドではボールがリングに届かないので、ワンハンドシュート専門、これが良く決まるようになり高校1年生でレギュラーになるも、東京都大会での最高位は3回戦止まりの無名校。

昭和31年立教大学に入学、30人程が籠球部に入部するも、私以外は横山君はじめ殆ど全員がインターハイ出場経験者、時の主将は東海林周太郎さん、2年生に奈良節夫、金川英雄、川本禮治郎さん等がいて、一軍練習に参加することすら困難であった。2年生の時に4年生のトレーナーから、ガードのプレイヤーがワンハンドでのミドルシュートはスタンドプレイであり、ボースハンドでのシュートが出来ないガードは不要と断じられ、目の前が真っ暗になり登校もせず、よって単位不足で落第、1年下の大島康邦、山本誠治君と同級生となる。

ワンハンドシュートを禁じた4年生が卒業してからは、どうにか一軍練習にも定着できるようになり、横山君が卒業して私が5年生になった時に念願のレギュラーガードとして、昭和35年の六大学リーグ戦での優勝が私のバスケット暦唯一の勲章である。

昭和36年卒業、大島君と共に日本鉱業に入社するも落第生の私に本社採用の道はなく、系列会社への配属から日鉱バスケット部への通勤となった。同期には明治大からの志賀政司君、芝浦工大からの鈴木大仙君などが入社していたが、当時の日本鉱業のチームにあっては大島や志賀といえどもレギュラーになれない程の名選手揃いで、私などとても、とても。1年間のプレイで引退してしまったこと後悔の到りなり。

ちなみに当時の日本鉱業のスタートメンバーは、斉藤博、今泉健一、泉隆雄、東海林周太郎、奈良節夫さんであったと思うが、登坂さんや望月雅夫さんの名も忘れてはならないであろう。

私のバスケットを通じての宝物は「関六・35会」のメンバーや勝手にお名前を使わせていただいた日鉱の方々と、短い期間ではあったが共にプレイさせていただいたことである。

題目その3。バスケットへの提言。プラザ第39号が刊行のころには協会の人事も刷新されて大方の役職も固まっていることと思うが、日本のバスケットボールが国際試合においてせめて善戦できるようになるまで戦力のレベルアップを図るために、斬新な技術改革と意識改革を行うことが肝要ではなかろうか。これらを踏まえての果敢なる組織改革を行っていただきたい。

題目その4。振興会への要望。新理事長の小澤正博氏が就任挨拶で述べられていることが実践されれば十分と思うので、スタッフ一同の活躍を願う。プラザ第38号に掲載のFIBA女子予選の詳細は真に結構、(スコア表があれば更に良し)P22、23のインターハイの組み合わせ表に加えて、都道府県の予選試合の組み合わせ表や準々決勝戦以降の戦績とスコア表を掲載して、勝ち上がったベスト8校くらいにはプラザ誌を贈呈してはいかがか。活躍した選手を讃え、励ましと更なる精進の言葉を添えることによって、人材の育成と発掘の一助になるのではなかろうか。

大学の公式戦始めプロのゲームや実業団のゲームも同様に報道して、これらをマスコミにも提供してバスケットのPRに努め、マスコミとも仲良くする。

プラザ誌の広目の効果を上げるために色刷りを採用し、購読の広汎性を高めれば広告掲載企業の増加が期待できる。

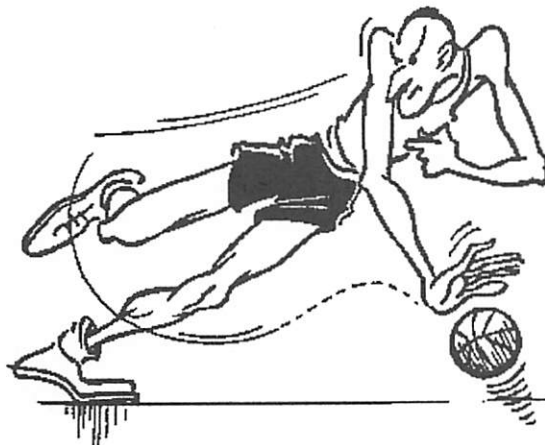
以上改革だのPRだのご託を述べてきたが、このようなことは10年いやもっとそれ以前に検討され尽くされてきたこととも思うが、バスケットを愛する惚け老人の世迷いごとと打ち捨てていただきたい。とにもかくにも日本のバスケットボールが、せめてアジアのチャンピオンとなって、メジャースポーツへの復権を願ってやまない。

バスケットボールの殿堂はありましたっけ、半アルツ故お許しください。

[立教大学OB]

プラザ こぼればなし

- ◇ 本年度のJBLシーズンも本文記事にあるように、国内のトップリーグとして9月26日から開催されている。興行については、先輩格といえるbjリーグを見習い、是非、成功させて欲しい。われわれ振興会が応援できる施策も探って頂きたいものである。また、国内トップリーグは一つであるとの考えは最強のナショナルチーム編成のために必至と思われる。そのためには、bjリーグがJBA傘下でありたい。しかし、JBLとbjリーグとの2リーグの競合は、国内のメジャースポーツを目指してバスケットボールの観客動員と共に同好の士を増加させるうえで、必要ではなかろうか。
- ◇ 田臥勇太選手の入団したリンク栃木ブレックスは開幕戦で連敗したが、今後の成績に目が話せない。一方、bjリーグも開幕し、236cmという長身のソンミンミン選手が浜松東三河フェニックスで活躍する。これらの話題は新聞記事での報道で皆様ご承知と思われるが、更に、本文記事にリーグ日程が掲載されているので、皆様の「JBL」「WJBL」および「bjリーグ」への応援を、バスケット界発展のため、切にお願いしたい。
- ◇ 去る9月、JBL開幕に先立って行われた記者会見に、各チームのヘッドコーチおよび代表的な選手各チーム2名がユニフォーム姿で登場した。
その中には兄弟で日本代表選手に選ばれた両竹内選手もいて、記者団の注目を集めたが、両選手ともが「外国籍選手」がオンザコート1名になったことで、外国籍選手とのマッチアップの機会が少なくなるので、リバウンドをはじめあらゆるポジションで頑張ると決意表明。
現在の日本人長身選手のなかで注目されている選手だけに、いわゆるオールラウンドプレイがどれほど出るかも楽しみのひとつである。
- ◇ 恒例の関東大学リーグ戦が始まったが、日程表をめくると開催場所がいかにも遠すぎる。各大学が郊外に分散しているせいか、観戦に出かけるにもかなりの時間と費用を要する。
都内に体育館を保有している大学もあるのだから、なんとかやりくりして多少なりとも便が良いところで開催してほしいというのは我侭だろうか。



REUSE を考える

〔環境の総合情報商社〕

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない”これが私たちの願いであるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7